

活かす通信

2024年6月(203号)

<http://npo-icas.com/>

★★

巻頭言 篠田憲明(元時事通信政治部)

会期末に「自公政権」が崩壊危機も

=マスコミ調査で「自公以外での政権に期待」が過半数も=

★★

岸田首相は「今国会の会期末(6月23日)までに自民党の政治資金規正法の改正案成立を」指示したが、このことは、同改正案成立を“手土産”に会期末の衆院解散を目論んでいるようだ。しかし、マスコミ各社のうちANN(テレビ朝日系)は20日に18,19日に実施した同局の世論調査結果を発表。それによると、「自公両党による政権継続」を望む人々は39%に過ぎず、「自公以外の政党による連立政権を望む」とする向きが52%に達していることを明らかにした。こうした傾向は他の各社も同様の傾向だが、過半数を超えたのはANNだけである。自公以外の連立政権樹立を望む層が過半数に達したのは、2009年の民主党・鳩山由紀夫内閣以前でなければデータはない。この驚くべき事態に首相の側近は「解散絶対駄目」と、長老議員らは“止め”に入ったが、それよりも驚いたのが、公明党である。

というのは、公明党は、自民党の政治資金規正法改正案こそ、与党で在りながら自民党と共同提出しなかったが、最終的には自民党との折衷案を出して与党の意思を示すと見られている。しかし、自民党案に乗るのは、民衆を敵に回すことになり、公明党・創価学会には「最も悪手」(同党首脳)。同党は国会の会期末では相当苦しい場面を迎えそう。とはいえ自民党にも良くない。公明党は小選挙区で平均2万票を持っているだけに、前回の選挙で2万票の差が付いていない自民党議員(60人以上はいる?)は当選できなくなる。それでは下野を余儀なくされる岸田総理・総裁にはもっと困るだろう。会期末には、岸田首相が「衆院解散」に拘泥する限り、「自公政権崩壊の危機」が近づき、その元凶は公明党となるかもしれない。

26日投開票の静岡知事選挙でも恐らく野党候補が勝利しそうだが、先月末の衆院3補選で全敗した時点で「岸田首相を選挙の顔に出来ない」（自民党選対幹部）と言われている。にも関わらず、岸田首相は「今秋の自民党総裁選までには今回期末しか解散時期はない」とまで思い込んでいるという。ただ、読売新聞とNNN（日テレ系）が実施した調査によると、今秋の総裁選では、相変わらず“小石河”が「ふさわしい総裁」のトップ3。石破茂元幹事長22%で、小泉進次郎元環境相は16%、河野太郎デジタル担当相10%と続くが、各社ともいつもと同じ順位・水準で変わらない。

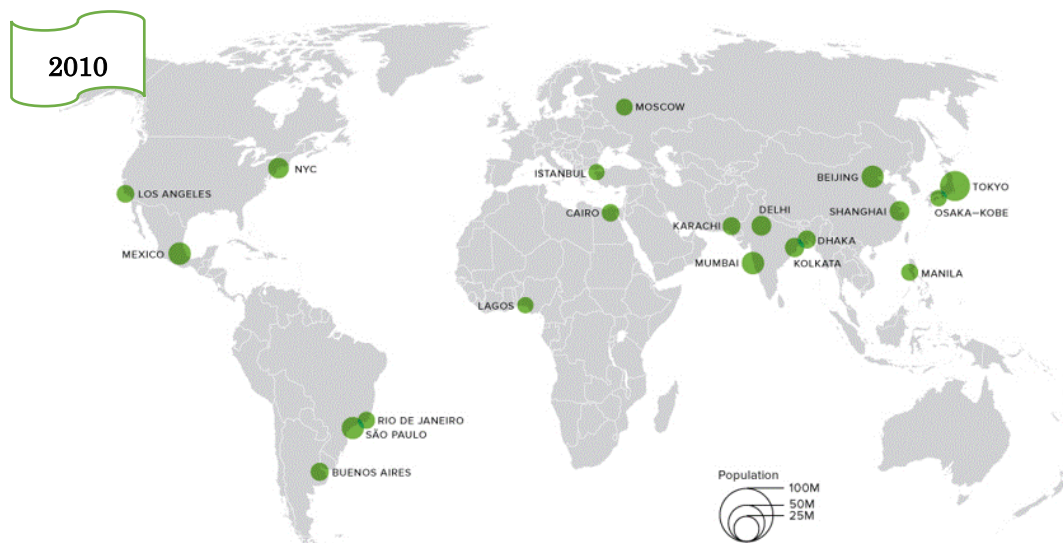
高市早苗経済安保相と急上昇したという上川陽子外相は7%と並んで4位。菅義偉前首相6%、岸田文雄首相4%と冴えない。林芳生官房長官や自民党の茂木敏充幹事長、小淵優子選対委員長らはいずれも2%に過ぎない。これでは岸田現職首相の続投となるが、各社の首相支持率がこの数か月20%台に留まっており、「次期総裁にふさわしくない」と言われて久しく、茂木幹事長が台頭する兆しがないだけに、「衆院を解散して墓穴を掘らなければ可」なのだ。つまり「嫌な話は岸田首相にやってもらおう」のが、“戦い”を好まない若手議員らの“情けない”気持ちなのかも。（憲）

★★

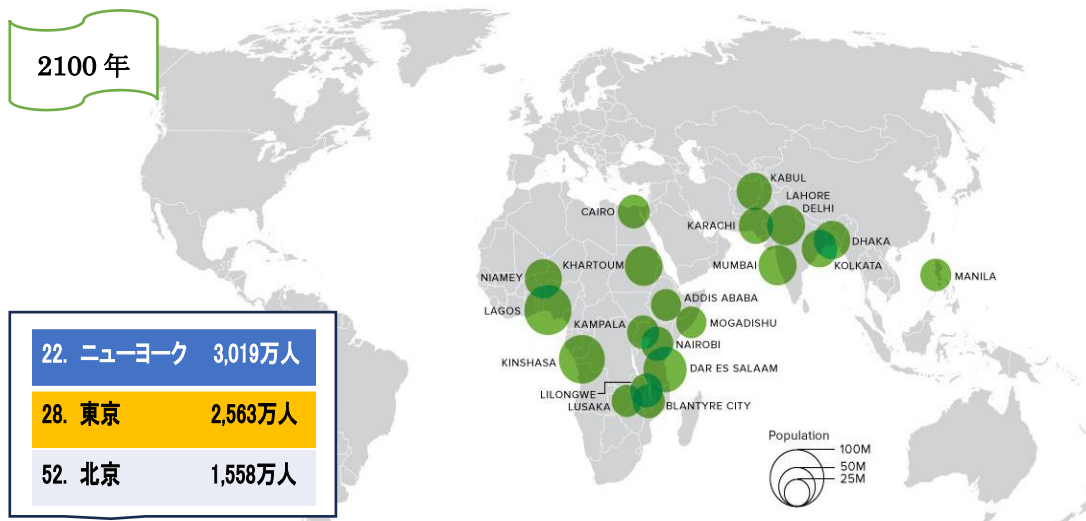
勝池レポート アジア資産運用アドバイザー 勝池和夫
「グローバルサウスの時代と日本」

★★

以下二枚の地図は、カナダのオンタリオ工科大学の予測する、世界の都市圏人口ランキング上位20の変遷（2010年～2100年）を示しています。両年の上位5位までの都市名と人口は中ほどの表に挙げました。



| 2010年 | | 2100年(予測) | |
|------------|---------|--------------------|---------|
| 1. 東京 | 3,609万人 | 1. ラゴス(ナイジェリア) | 8,834万人 |
| 2. メキシコシティ | 2,011万人 | 2. キンシャサ(コンゴ) | 8,349万人 |
| 3. ムンバイ | 2,007万人 | 3. ダルエスサラーム(タンザニア) | 7,367万人 |
| 4. 北京 | 1,961万人 | 4. ムンバイ(インド) | 6,724万人 |
| 5. サンパウロ | 1,958万人 | 5. デリー(インド) | 5,733万人 |



ご覧のように2010年には、大都市はほぼ均等に世界に分散していました。それが2100年になると、ランキング上位20には欧米、中国、日本には無くなり、ニューヨーク(22位)も東京(28位)も北京(52位)と大きく順位を落とすと見られています。

一方で、大都市はインド周辺とアフリカ、そして一部東南アジアに集中すると予測されています。尤も遠い未来の予測なので、ぴったりと当たることはないでしょう。しかし、この大都市の変遷の方向性は大きくは外れていないように感じます。

このように大局的に見ると、これからの世界経済の中心は、2100年の地図にある大きめの丸印が示しているように「グローバルサウス」の地域になりそうです。中でもインド洋を取り囲む所謂インド洋経済圏が、これからの世界経済の檣舞台に立つと予想されます。

私たちは、欧米中心の「グローバルノース」の時代に生まれ長く生活してきました。ですので、その地域を代表するG7諸国の動向にしか殆ど関心が無く、まだその隆盛時の余韻に浸っているようです。しかし、これから始まる「グローバルサウス」の時代には、その新しい世界秩序に対応したビジネス戦略や投資戦略が、企業の経営にも個人の資産運用にも求められそうです。



ムッシュ望月の今月の相場展望と映画紹介

映画は世につれ、世は映画につれ、世相を反映するのが相場



米国株が相次ぎ最高値を更新する中、日本株は足踏みをしている。日経平均株価は3月末比で4%安と、同期間の騰落率は主要国20指数で最下位となった。その大きな要因は、3月期企業の決算発表で、慎重な今期計画が表明され、投資家の期待にそぐわないものであった。脱デフレに対する外国人投資家の期待が大きかっただけに、株高持続のハードルは高くなってきた。2013年末以降比では16%高とは言え、4月、5月の2ヵ月で4%下落した。一方、米国市場は失速することなくインフレが収まる「軟着陸期待」で再び買いが広がりNYダウは40000ドルを引値ベースでクリアした。英独仏も最高値を更新し、香港・上海も反転に転じた。多くの日本企業は例年、通期決算の発表時に今期見通しを公表する。期中の業績下方修正を避けるために、期初の見通しは保守的になりがちである。5月16日現在、対象企業の予想純利益は前期比2%増に対して6%減で、差は8%と3年間の平均5%を上回る数値で、予想からの下振れ幅は2.8兆円と高い。大きくずれた要因は二つある。先ず一つ目は、業績予想となる円相場の見通しである。トヨタを含め主要企業の4割りの想定レートは1ドル=145円となり、過去10年以降で見る限り、実勢レートとの差は11円と最大になり業績の見通しの難しさを反映した予想と言える。24年3月期好調な決算を発表したトヨタは円安効果で収益を上げただけに、今期はその効果は継続できないとの見通しから、株価は3月末比で1割安に沈んでいる。また自動車を中心とした製造業は、中国・欧州での需要鈍化懸念もくすぶり買い進む状況にはない。

もう一つの要因は、23年以降の株高局面で、日本株を買い始めた海外投資家が多く、日本の決算発表事情に疎く、失望売りを誘ったと言える。当面のPERは17倍~16倍を動くとする、37500円~39831円が想定される。NTT株は減益見通しを発表し、失望売りに押され11日続落した。11日連続安は2001年以来23年ぶりのことで、個人投資家の失望売りが中心である。新NISAの人気株ただだに失望感は大きい。また、人工知能(AI)分野の需要期待が根強い半導体関連では、市場予想にわずかに届かず、「物足りない」との反応を招いた。製造装置の東京エレクトロンは、25年3月期の純利益予想が前期比22%増(4450億円)と市場予想の同24%増の4530億円に届かず、株価は3月末比で9%下落した。検査装置のアドバンテストも市場予想を大きく下回り、決算発表の翌営業日には7%安と急落した。投資尺度の割高感・割安感を示す予想PER(株価収益率)が17倍に近い水準にあり、やや割高感が目立つ。17日現在の日経225のPERは16.55倍、EPSは2343円、24年3月末ではPER16.90倍、EPS2295円でややプラ

スに転じている。20日の損保株の発表次第では、また多少EPSは増加する可能性は残されている。

自社株買い銘柄を発表した銘柄の中では、トヨタ、KDDI、ENEOS等は株高効果が打ち消されている。ソニーや三井住友FG等は高値を更新している。ソニーに関しては成長戦略が明確であった。三井住友フィナンシャルは、今後も緩やかであっても金利引き上げの流れが続くことで利益の増加が見込めるとの判断により高値を16年半ぶりに更新した。信越化学は1000億円の自社株買いを17日に発表し、なお取得した自社株買いは消却し、資本効率を高めるとしている。「自社株買いは買いという神話」は崩れだしているだけに、成長戦略に選別の目が必要である。過去と異なり、市場には新規資金が入りやすい構造が出来だしているので、余り目先の動きに一喜一憂する必要はありません。

今月の映画の紹介：

4月は11本の作品に出会いました。通算で45本となりました。5月は7本となっています。目標の10本までにはあと2本です。4月は「ゴーストバスターズ」「パストライブズ」「ラインゴールド」「プリクラ」「ブルックリンでオペラを」「陰陽師0」「悪は存在しない」「4月になれば彼女は」「アイアンクロウ」「ゴジラ×コング」「名探偵コナン」の11作品を鑑賞しました。エルビス・プレスリーのファンなので「プリクラ」を紹介するのが良いのですが、第80回ヴェネチア国際映画祭銀獅子賞（審査員グランプリ）受賞作品「悪は存在しない」を紹介します。前作「ドライブ・マイ・カー」で意気投合した監督は濱口竜介、企画・音楽は石橋英子です。自由に、まるでセッションのように作られた作品で、映画と音楽が見事にマッチングして、想像を超えた景色へ誘ってくれます。なんと主演は、当初スタッフとして参加していた大美賀均が抜擢され、新人ながらも西川玲は鮮烈な印象を残しています。穏やかな世界から息をのむクライマックスまでの没入感、途方もない余韻に包まれ、見るもの誰もが無関係でいられなくなる魔法のような作品です。物語の舞台は長野県水挽町で、自然が豊かな高原に位置し、東京からも近く、移住者が増加傾向にあり緩やかに発展しています。代々そこで暮らす巧（大美賀均）とその娘・華（西川玲）の暮らしは、水を汲み、薪を割るような、自然に囲まれた慎ましいものでした。そこにある日、彼らの住まいの近くにグランビル場を作る計画が浮上します。コロナの影響で事業に支障をきたした芸能事務所が政府の補助金でこの事業を推進するのですが、森の環境や町の水源地を汚しかねない計画に町内は動揺し、その余波は巧たちの生活にも及んでいきます。補助金目当ての計画に対するアンチテーゼの作品です。ぜひご覧ください。（純記）



24年6月以降のイカス倶楽部スケジュール



- 06月05日(水)：15：00～花咲投資クラブ
- 06月06日(木)：13：30～日比谷会投資クラブ
- 06月11日(火)：16：00～ムッシュのサロン・ド・経済
- 06月15日(土)：15：00～スペリオール投資クラブ
- 06月20日(木)：18：30～ムッシュ望月の車座(道するべ)
- 06月27日(木)：15：00～東京3Eクラブ
- 07月03日(水)：15：00～花咲投資クラブ
- 07月04日(木)：13：30～日比谷会投資クラブ
- 07月09日(火)：16：00～ムッシュのサロン・ド・経済
- 07月18日(木)：18：30～ムッシュ望月の車座(道するべ)
- 07月20日(土)：15：00～スペリオール投資クラブ
- 07月25日(木)：15：00～東京3Eクラブ

投資クラブの年会費36000円、スポット参加の費用は1回3000円(消費税込み)
 有料メルマガ(毎週日曜日発行)24000円
新設：車座(道するべ)、学生1000円
 会場は全てイカス事務所にて

第26回カラオケ会：24年06月28日(金)：18：00～21：00

参加費が7000円、ノンアルコール6500円、倶楽部エール

ムッシュのサロンは朗読会とのコラボ：6月11日(火)16：00～18：00

コラボの朗読会(40分程度)講師：郷圭子氏(朗読家)

サロン・ド・知久(交流会)：参加費3000円、歩く会・特番は別料金

第37回：24年6月25日15：00～17：00：「サラリーマン川柳」、平野徹氏(日比谷会投資クラブ)、イカス事務所

告：9月28日三宅あみの街歩き、座学「江戸城の歴史を知る」、六本木ヒルズクラブ

10月5日三宅あみの街歩き、「江戸城内を散策」、金額未定

第42回：イカス夏の交流会：2024年6月13日(木)午後6時～午後9時

外国特派員協会、参加費：12000円、事前振り込み：11000円

講師：元帝京大学教授・野村證券フランス現法社長・フランス倶楽部会員

山本博幸氏 「フランスはどのように人口減を抑えたか・外伝」

ゲスト：詩吟アーティスト 恵聖氏(劇場版鬼滅の刃作詞・歌唱)

来賓挨拶：今井激氏(イカス最高顧問、国際経済アナリスト)

NPO イカス：東京都港区新橋 3-16-12 横山ビル 6F

info@npo-icas.com <http://www.npo-icas.com>

会費振込先：三菱 UFJ 銀行新宿中央支店、普通：5 3 1 3 5 5 0